

生成AI時代の大学入試と進路指導 — 評価の変容と高校現場の役割 —



九州工業大学 高大接続センター
木村 智志

©2026 KIMURA Satoshi



自己紹介



きむら さとし
木村 智志

連絡先

kimura-s@office.kyutech.ac.jp

略歴

- 2006年3月 兵庫県立姫路工業大学 理学部 卒業
- 2008年3月 兵庫県立大学大学院 生命理学研究科(博士前期)修了
- 2009年3月 兵庫県立大学大学院 生命理学研究科(博士後期) 中退
- 2009年4月 兵庫県立西宮香風高等学校 理科教諭+他校の非常勤講師
- 2014年4月 兵庫県立宝塚北高等学校 理科教諭
- 2022年4月 九州工業大学 高大接続センター アドミッションオフィス 講師
- 2024年5月 同 准教授

委員歴

- 2018年4月～2021年3月 全国高等学校文化連盟自然科学部門 理事

研究

- 教育接続の観点から見た入学者選抜・理科教育・探究教育
- 生成AIが大学入学者選抜に与える影響
- 出題支援のための生成AI活用方法に関する研究
- 文章評価におけるAI評価と人間評価の比較研究

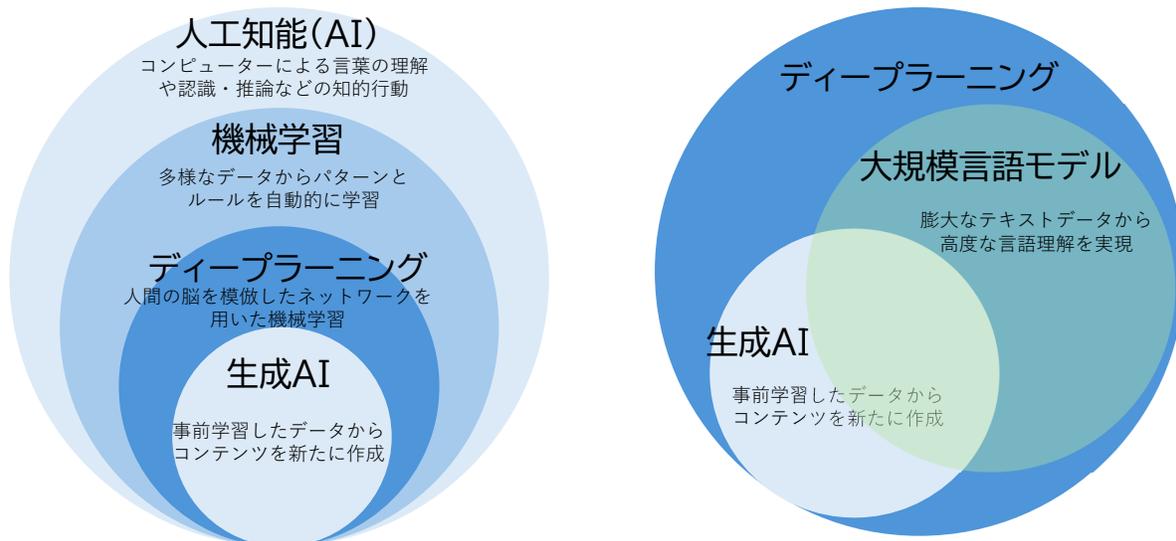
©2026 KIMURA Satoshi

今日の流れ

1. 生成AIと従来型AIの違い
2. 高大接続改革と主体性評価
3. 生成AIと高校生の意識
4. 大学入試と生成AI
5. 進路指導は変わるのか？
6. まとめ

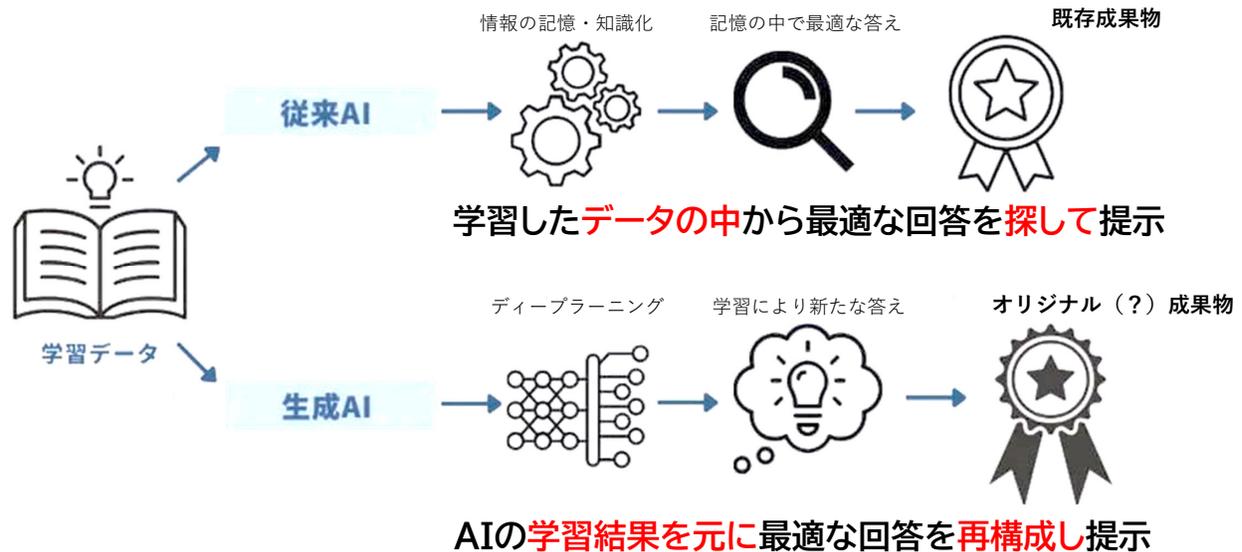
©2026 KIMURA Satoshi

生成AIとは



©2026 KIMURA Satoshi

これまでのAIと生成AIの違い



©2026 KIMURA Satoshi

生成AIがやっていること

…学習パターンを元に質問に対して最も“それっぽいこと”を予測して回答する

例えばChatGPTは

「(人が書いた)文章のパターン」を学んで、次に続く言葉を予測するAI

例) 「日本一高い山は？」

“日本”“一”“高い”“山”“富士山” が順接でつながった文章を学習しているから

例題) 今日はとても寒かったので、_____。

©2026 KIMURA Satoshi

Q:福岡市にある世界遺産とその概要を教えてください。

A:福岡市には、2015年にユネスコ世界遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」があります。その構成資産の一つである「志免炭鉱跡」は、かつて福岡市東区に存在した炭鉱で、産業の近代化に貢献した施設の一つです。また、近隣の「太宰府天満宮」は学問の神様・菅原道真を祀る重要な文化財であり、多くの観光客が訪れる名所です。

(1) 次のAIの回答を参考に次の文章のうち正しいものをすべて選びなさい。

- ① 「明治日本の産業革命遺産」は2015年にユネスコ世界遺産に登録された。
- ② 福岡市には過去に炭鉱があった。
- ③ 菅原道真を祀る太宰府天満宮は世界遺産の一つである。

©2026 KIMURA Satoshi

生成AIがやっていること

…学習パターンを元に質問に対して最も“それっぽいこと”を予測して回答する

※正しい情報を検索したり、裏どりしたりする機能はない

(複数回“予測(計算)”した結果、最も確からしいものを出力している)

⇒ハルシネーション(出力されたものが間違い／不適切)を起こすことがある

©2026 KIMURA Satoshi

生成AI(無料版)を使う際に考えること

アカウントを作るべき?ログインすべき?

ログインしないと…

×リクエスト回数や性能に制限がある

×(多くの場合)ファイル添付などができないことがある

×使用履歴が一切保存されないため、過去のやり取りを後から確認できない

△個人的な癖や過去のやりとりを元にしたカスタマイズができない

○使用履歴を個人と紐づけられないらしい

(本当かどうかわかりませんが…)

・ハルシネーションが起きやすかったり倫理面に課題があるらしい

・リアルタイムで更新される情報にアクセスしないケースが多らしい

©2026 KIMURA Satoshi

生成AIの得意／不得意

得意なこと ⇒情報整理や、パターンに基づいた文章修正

- ・情報の整理や要約
- ・文章の整理や要約
- ・文章の言い換え
- ・問いかけに対する即時応答
- ・具体的な指示に応じたデータの分析

苦手なこと ⇒学習データにないこと

- ・個人的な感情や経験の表現
- ・真偽の判断
- ・新しい情報への対応
- ・価値や倫理的な判断
- ・抽象的なデータ分析

生成AIは「言語のパターン」をなぞるのは得意。
「判断」や「学習データにないこと」には対応できない。

教育現場で利活用するためには、これらを踏まえる必要がある

©2026 KIMURA Satoshi

生成AIをうまく使うために

ChatGPTに「生成AIをうまく使うためのポイント」を聞くと...

①プロンプトを工夫する

⇒「どう聞かか」「どう問うか」で答えの質が決まる(=知識・理解)

②すべてを信じない

⇒間違いや“それっぽいうソ”に気づく力が必要(=判断力)

③自分の言葉に直す

⇒出力をそのまま使うのではなく、“自分の考え”として書き直す(=思考力・表現力)

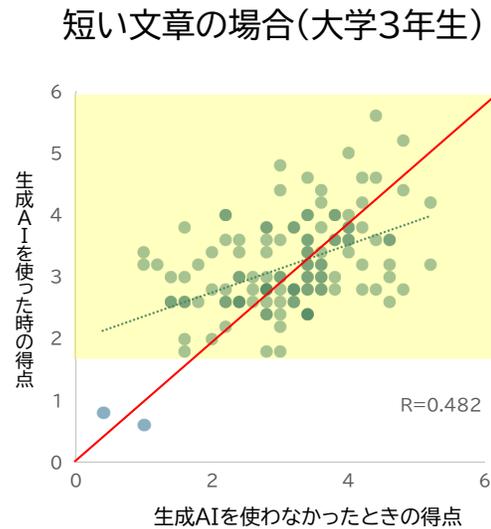
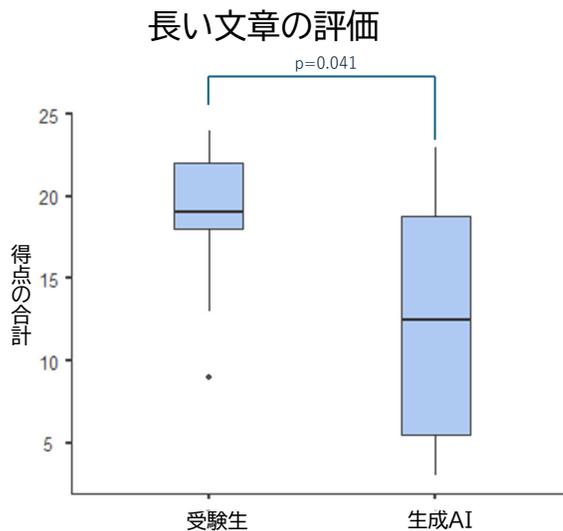
④使いどころを選ぶ

⇒「まとめ」「書き出し」など、補助として使うと効果的(=主体性)

👉 AIは“先生”ではなく、“アシスタント”

©2026 KIMURA Satoshi

因みに...2023年の実験では生成AIだけでは高得点にならなかった



©2026 KIMURA Satoshi

生成AI時代を生き抜くために必要な力

ChatGPTに「生成AI時代を生き抜くために必要な力」を聞くと...

①判断する力(思考力・判断力)

⇒AIの出力をそのまま使うのではなく、「妥当か」「自分の目的に合っているか」を選別できる力

②問いを設計する力(問題発見・構造化能力)

⇒何を聞くか、どの順序で深めるかを設計できなければ、AIは力を発揮しない

③文脈を持つ力(経験・接続力)

⇒自分の経験や学びと結びつけて意味づけできなければ、出力は借り物にとどまる

④検証する力(情報リテラシー・批判的思考)

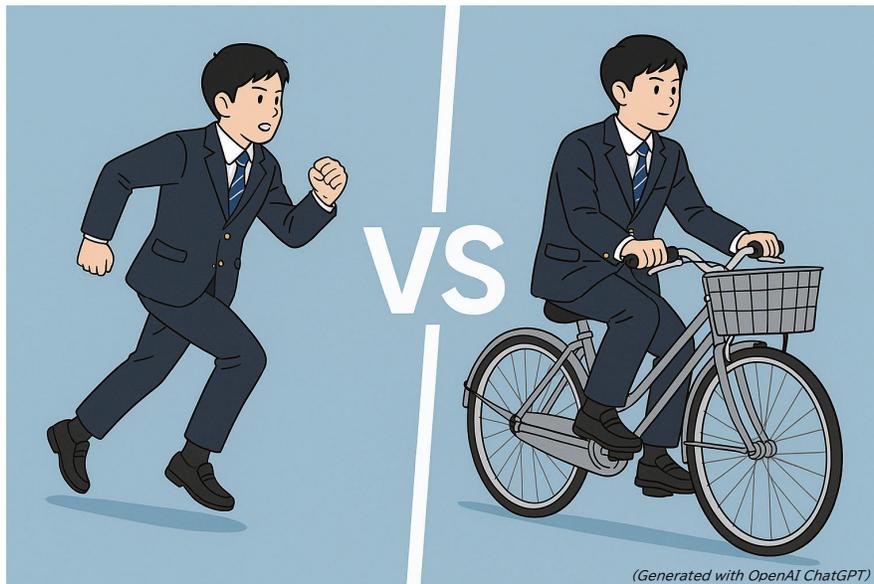
⇒“それっぽさ”に流されず、根拠や裏付けを確認できる力

⑤自分の言葉で再構成する力(表現力)

⇒AIの文章を材料に、自分の立場・価値観・目的に沿って書き直せる力

©2026 KIMURA Satoshi

生成AIを学習活動で使うには



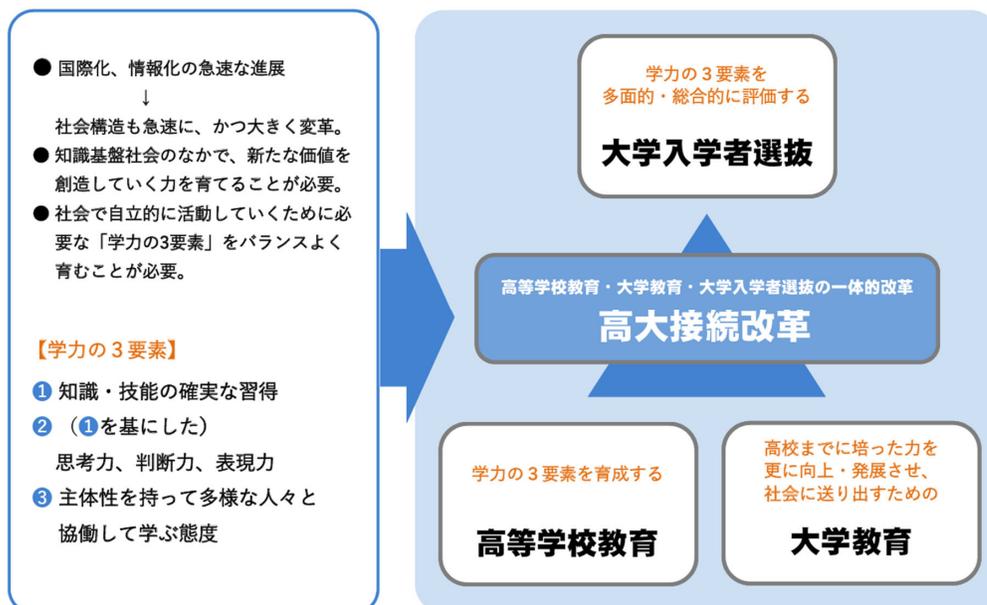
©2026 KIMURA Satoshi

今日の流れ

1. 生成AIと従来型AIの違い
2. 高大接続改革と主体性評価
3. 生成AIと高校生の意識
4. 大学入試と生成AI
5. 進路指導は変わるのか？
6. まとめ

©2026 KIMURA Satoshi

大学入試改革



大学の役割と3ポリシー

国や産業界・社会からのニーズ

「知識を持つ人」から
「主体的に学び課題を
解決し協働できる人」へ



ディプロマポリシー

「専門知識を持つ人材を送り出す」から
「知識を基盤に主体的に学び、課題解決・協働
できる人材を育てる」へ



カリキュラムポリシー

「知識・技術伝達と研究センターの教育」から
「探究・協働を育てる教育」へ



アドミッションポリシー

「知識・技能をもつ人」だけでなく
「主体性や協働性を持つ人」も



入学者選抜

「知識・技能を軸とした選抜」だけでなく
「多面的評価を重視する選抜」の増加

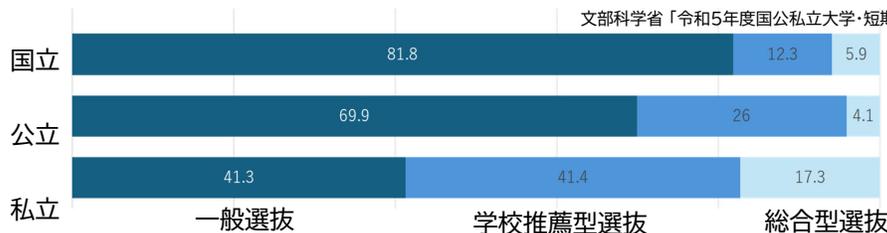
©2026 KIMURA Satoshi

大学入試改革とその状況

現在は学校推薦型選抜と総合型選抜を合わせると大学入学者の50%を超えている

令和5年度入学者の選抜区分の内訳

文部科学省「令和5年度国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」より作成



学校推薦型選抜 … **書類審査**・調査書・推薦書・面接等を主な資料として、
評価・判定する入試方法

総合型選抜 … **書類審査**と面接等を組み合わせることによって、
総合的に評価・判定する入試方法

大学が求める学生像は「アドミッションポリシー」にある

本学は、建学の精神として受け継がれているわが国の産業発展のための品格と創造性を有する人材である「技術に堪能なる士君子」の育成のもと、急速に変化する現代社会の中で持続可能な社会を目指し、産業と社会の課題を解決し、未来への発展を技術の力で導くことができる、倫理観と創造力を有した人材の育成を使命としていします。

そのために、多様な文化を受容する力、コミュニケーション力、自律的に学習する力、課題を発見し探究する力、科学技術の社会貢献を可能にするデザイン力を持ち、高度な科学技術に関する知識・技能を身につけた人材を育成します。そこで、本学では、次のような素養と能力をもつ人を求めます。

- (1) 理工学分野の学修において基盤となる、数学、理科、情報などの理数系教科・科目で高い基礎学力をもち、それらを用いて自分の考えを表現できる人
- (2) 自律的な学びから広い視野をもち、理工系人材として成長する強い意志と、「社会をより良くする何かを残したい、社会の問題を解決したい」という考えをもち続け、自らそのために行動できる人
- (3) 国際化に対応できるコミュニケーション力の修得や、様々な文化を理解し受容することに前向きであり、多様な人々と協働することを通して、創意・発見する知の探究を持続する必要性を理解している人

さらに、本学での授業内容を理解するために、高等学校等における基礎的な内容を学んでおくとともに、数学と理科の学習内容が特にしっかりと定着していることを望みます。

九州工業大学（2026）令和8年度入学者選抜要項より

大学が求める学生像は「アドミッションポリシー」にある

総合型選抜（総合Ⅰ）

工学分野に広く興味や関心をもち、情報を他者へ伝えるためにまとめる力をもつとともに、本学の教育の中で、工学・情報工学の基盤となる基礎的な知識・技能と学習機会やグループ活動においてリーダーシップやフォロワーシップなど、個々の役割を果たすことができるスキル・態度を問う選抜です。そのために、第一段階選抜では適性検査で主に(1)，(3)を、大学講義等のレポートで主に(2)，(3)を、課題解決型記述問題で主に(1)，(2)，(3)を評価します。第二段階選抜では学びの計画書及びグループワークで主に(2)，(3)を、個人面接で(1)，(2)，(3)及び志望学部・類への意欲等を評価します。

九州工業大学（2026）令和8年度入学者選抜要項より

募集要項を読むと

選抜区分	評価項目	内容	採点・評価方法等
第1段階選抜	課題解決型記述問題	<p>小中学校・高等学校で学ぶ算数・数学、理科及び情報の内容をもとにした総合的な問題1つについて、図なども用いて解答してもらいます。</p> <p>提示された内容を読みとり、それを基に、指定された課題や企画の展開について記述してもらいます。</p>	<p>答案に基づき、<u>知識・技能、思考力・判断力・表現力や主体性・協働性・多様性等を評価</u>します。</p> <p>主に以下の点に着目しながら、答案を複数名の評価者が5段階で評価し、それらを合算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題で示された事象を正しく理解し、表現できているか。 ・課題で示された事象を科学的に説明できているか。提案の内容に理工学的な視点が含まれているか。 ・他者が読むことを意識した、論理的な文章表現で構成されているか。多様な考え方ができているか。 ・課題に対して興味・関心を持ち、理解して何かを発見しようとする態度が読み取れるか。 ・参加者や対象者の属性まで意識して考えられているか。

令和8年度 九州工業大学 総合型選抜(総合I) 募集要項 P.8

募集要項を読むと

レポート	<p>タブレット端末とイヤホンを用いて(予定)、工学・情報工学に関する専門科目の講義動画を1つ視聴してもらいます。</p> <p>その講義で重要だと考えられるキーワードを抽出した上で内容を要約するとともに、動画の視聴を通じて感じた入学までの学びの必要性についての考察を記述し、レポートとして提出してもらいます。</p>	<p>記述内容に基づき、<u>思考力・判断力・表現力、主体性等を評価</u>します。</p> <p>主に以下の点に着目しながら、記述内容を複数名の評価者が5段階で評価し、それらを合算します。</p> <p>(要約)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示内容に沿った記述となっているか。 ・単に知識や聴いた内容の羅列とならず、適切な内容に選択・整理して記述されているか。 ・理解できた内容/理解できなかった内容を、その理由も含めて表現できているか。 ・理解できた内容/理解できなかった内容について、それまでに学んだ理数の知識・技能を活用して記述しているか。 <p>(考察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要約の内容から、ポイントを絞り、理由を含めて考察できているか。 <p>(要約・考察 共通事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み手を意識した、論理的な文章表現となっているか。 ・「抽象」と「具体」を意識した表現が含まれているか。
------	---	---

令和8年度 九州工業大学 総合型選抜(総合I) 募集要項 P.9

今日の流れ

1. 生成AIと従来型AIの違い
2. 高大接続改革と主体性評価
3. 生成AIと高校生の意識
4. 大学入試と生成AI
5. 進路指導は変わるのか？
6. まとめ

©2026 KIMURA Satoshi

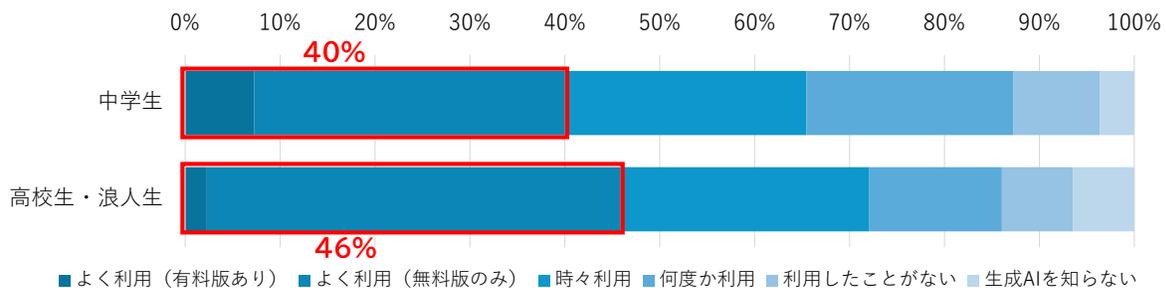
高校生の生成AIの活用状況（2025年）

九州工業大学の大学1年生のうち**42.5%**が「大学入学前に生成AIを利用したことがある」と回答 [2024年8月]

調査会社に委託実施したWEBアンケートでは**高校生・浪人生の24.1%**が「生成AIをよく利用している」と回答 [2025年3月]



2025年12月に調査会社にて実施したWEBアンケート（中学生 55名，高校生・浪人生 480名が回答）



(WEB調査であったことを加味しても、)ここ1年で急速に身近な存在になっている

©2026 KIMURA Satoshi

15～26歳を対象とした意識調査 (2024年vs2025年)

Q1. 受験や就職活動等で受験者が生成AIを活用することについてどう思いますか？



Q2. 受験や就職活動等で機会があれば生成AIを活用しようと思いますか？



※ 高校生・浪人生:292名 大学生～社会人(18～26歳):289名

※ 高校生・浪人生:292名 大学生～社会人(18～26歳):289名

©2026 KIMURA Satoshi

今日の流れ

1. 生成AIと従来型AIの違い
2. 高大接続改革と主体性評価
3. 生成AIと高校生の意識
4. 大学入試と生成AI
5. 進路指導は変わるのか？
6. まとめ

©2026 KIMURA Satoshi

大学の対応状況

多くの大学が大学での学修における生成AIの利用について何かしらの指針を公表

一方で...大学入学者選抜の場面については

対応の方向性を決定した 5% 検討中 25% 検討していない 68% [2023年上野創]

- 「使用を全面的に禁止」16%、
- 「使用した場合に申し出るよう求める」13%
- 「専用ソフトなどで使用を点検」9%

方向性を明らかにする場合はだいたい次の3パターン

- ・完全に利用を禁止している
- ・そのまま使用するなどした場合は不正行為と認定する
- ・適切にかつ自らの責任において利用する分に関しては許容する

©2026 KIMURA Satoshi

志望理由書と生成AI

Q 志望理由書等の作成時に生成AIを利用することは不正行為にならないのか？

A 大学によります。しかし、禁止を明言していないところが多いです。
(使っていることを判定する方法がないため)

Q 生成AIが利用できるなら入試として意味がないのでは？

A そんなことはありません。
そもそも事前提出物に対して、多くの大学は教員等の手が入っていると考えています。

**志望理由書等にAIが使われているか、先生の手が入っているかは
本質的な問題ではない**

©2026 KIMURA Satoshi

受験制度の設計側の目から総合型・学校推薦型選抜を見ると…

木村の私見ですが…

大規模型 (面接なし)		小規模型 (面接あり)
非常に低い	合否への影響度	低～中程度
ボーダーレベルでの活用	目的	多段階選抜での利用
最低限の文章作成能力があるか (基準を超えているか否か?)	役割	文章作成能力等の比較 面接等の材料

大学ではレポートを書く機会が多い

⇒問いに対して自分の考えを答えられるかが、学修において重要

©2026 KIMURA Satoshi

これからの入試において主体性はどのように評価するか？

- (1) 事前提出課題をやめて、当日試験場で書かせる
- (2) 生成AIを利用することを想定して、出題したり評価基準を工夫する。
- (3) 生成AIを利用することを想定して、面接とセットで評価する。

AI vs 大学入試

2011～2016年:「東ロボくん」プロジェクト (NII 新井氏)

ビッグデータと深層学習を利用した統計的学習

→センター試験で偏差値57程度/MARCH・関関同立の合格ラインには到達

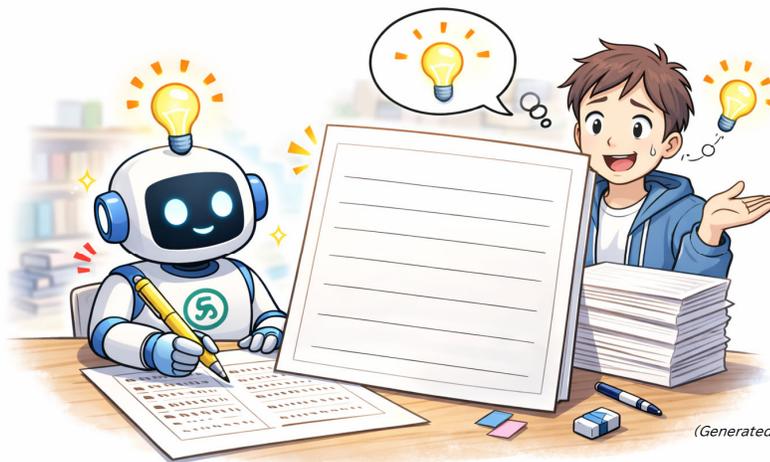
→数学・読解で限界が顕在化(「意味理解ができない」ことが露呈)

2023年以降:大規模言語モデル(LLM)

2025年にはChat GPT が 共通テスト 91%, 東大理Ⅲ 合格ライン に到達

©2026 KIMURA Satoshi

困みに。。。本当にAIを使った方が点数は高くなる？

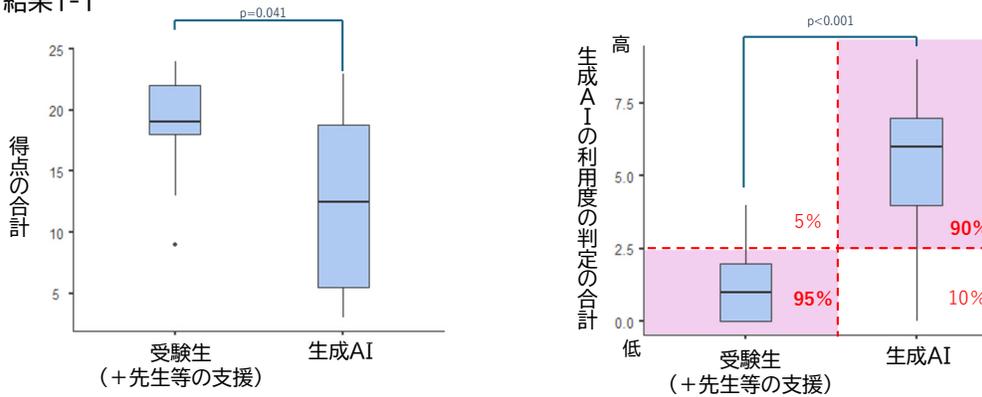


ちょっと古いデータですが...

©2026 KIMURA Satoshi

自由度の高い書類の評価への影響 (2023年)

結果1-1



生成AIで作成したものは、実際の解答に対して低い

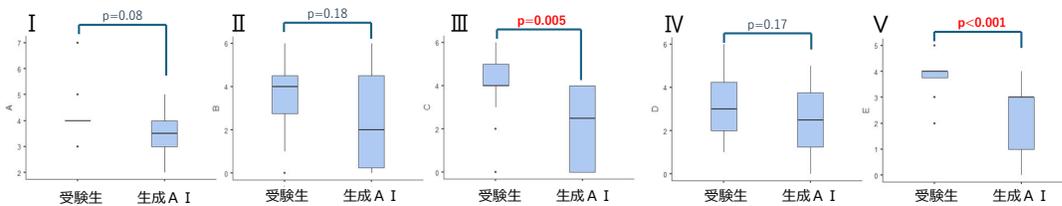
AI判定の閾値を2.5としたとき93%の精度※で判定

※精度 = $(TP+FP)/(TN+TP+FN+FP)$

©2026 KIMURA Satoshi

自由度の高い書類の評価への影響 (2023年)

結果1-3 観点別の得点合計の分布



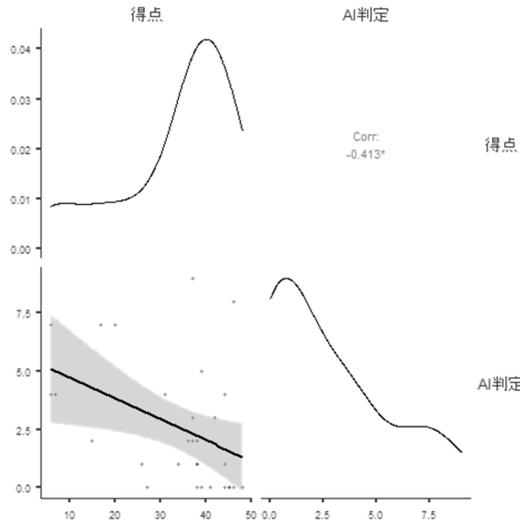
- I 「入学前の課題」と「入学後の課題」についての設定と取り組み方を記述しているか。
- II **これまでに**主体的に学びに取り組んできたか。
- III **過去の経験から大学での学びの動機付けが明示されており**、学びの目標を記述しているか。
- IV 主体性を確立した上で、他者と協働して学ぶ行動指針が示されているか。
- V パラグラフ毎に主題がまとめられており、文章構成が成立し、**問いに対して**答えられているか。

観点Ⅲ,Ⅴは有意に受験生の方が高い。(但し観点Ⅴは受験生内で評価の分布が小さい)

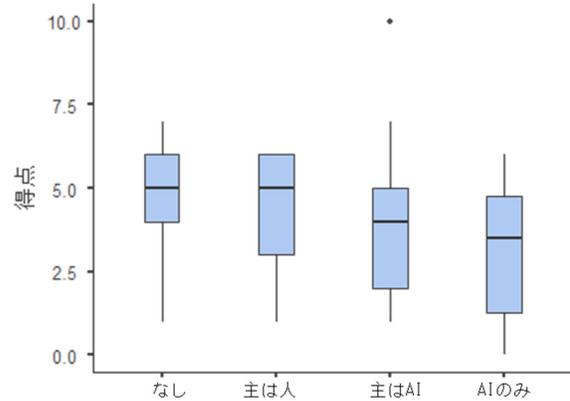
©2026 KIMURA Satoshi

自由度の高い書類の評価への影響（2023年）

結果1-2 AI判定と得点の関係



【AI判定結果別の得点分布】(10点満点/評価者)



AIを使用しているという印象を持たれた答えは得点が低くなる傾向がある。

©2026 KIMURA Satoshi

短い文章の評価への影響(1)（2023年）

方法2

内容 九州工業大学 一般選抜(前期)の「志望理由書」
(原則)400字以内で記述

サンプル 2023年5月に情報工学を学ぶ大学3年生(126名)が下記の方法で作成した490件
 A 生成AIを利用しないで作成 B 生成AIのみで作成
 C 生成AIを議論の相手として作成 D A~Cを踏まえて生成AIのみで作成
 ※使用した生成AIの種類やプロンプトについては大学生に一任した。

評価者 大学・大学院生 4名 大学教職員 1名 計5名
 入学者選抜を模した3観点3段階(0,1,2)のルーブリック(平均して6点満点)で評価
 AI判定 「0:AIの使用はない」「1:主は人」「2:主はAI」「3:AIのみ」
 (株)ユーザーローカル社の生成AIチェッカーを用いて「生成AIらしさ」の判定(100点満点)

©2026 KIMURA Satoshi

短い文章の評価への影響 (2023年)

方法2(評価の観点)

【指示文】

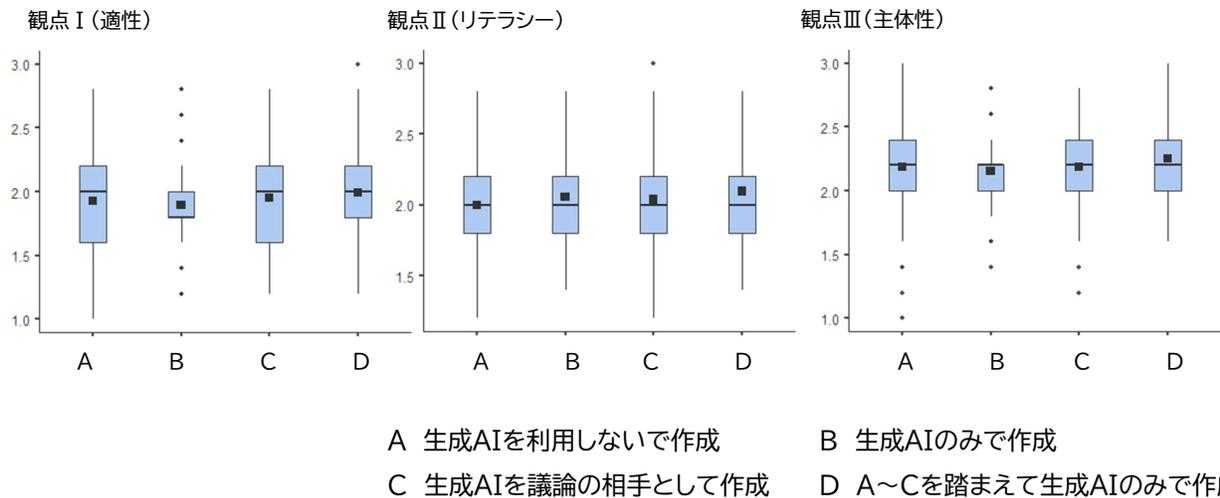
あなたが解決したい、または、変革したいと考えている社会や個人の課題を挙げ、その課題解決に向けて九州工業大学入学後に学びたいことや目標とすること、努力したいことについてまとめたものを入力してください。

観点	1	2	3
I 適性 工学系技術者としてふさわしい課題を挙げられているか。 *課題の内容・種類と、学科または学びの適合	課題が挙げられていない、または、挙げている課題が工学系技術者が取り組むものとしてふさわしいとは言えない。	工学系技術者が取り組むものにふさわしい課題を挙げている。	工学系技術者として取り組むべき課題を挙げ、その解決に向けての道筋(実現可能性は問わない)をイメージできている。
II リテラシー (短い文章で)他者が読むことを意識した論理的な文章を記述できているか。 *論理的思考力・表現力	・書くように指定されたことを記入していない ・他者に伝える気が見えない、独りよがりな記述になっている。	・指定された事項を記入している ・一部、読みづらさはあるものの、論理的なつながりに問題がない。	・限られた字数で読み手に伝わることを意識した表現が用いられている。 ・読みやすく論理的な文章となっている。
III 主体性 課題解決に向けた学びや目標に対してどのように取り組もうとしているかを具体的にイメージできているか *入学後の学びを自分ごととして取り組もうとする態度	自分自身がどのようなことを学びたいか、目標にしたいこと、努力したいこと(志望理由)のいずれも書かれていない。	自分自身がどのようなことを学びたいか、目標にしたいこと、努力したいことのいずれかが書かれている。(汎用性の低い抽象的表現でも可)	課題の解決に向けて自分自身がどのようなことを学びたいか、目標にしたいこと、努力したいことのいずれかが具体的に書かれている。(理解の深さがわかる抽象的表現や比喩表現は尚良い)

©2026 KIMURA Satoshi

短い文章の評価への影響(1) (2023年)

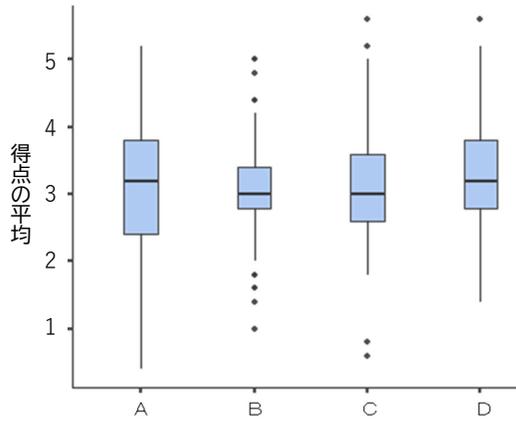
結果2-1 作成方法と観点別の得点



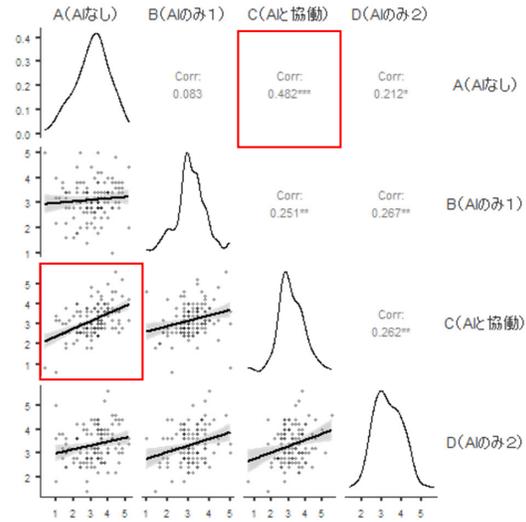
©2026 KIMURA Satoshi

短い文章の評価への影響(1) (2023年)

結果2-2 作成方法別の得点



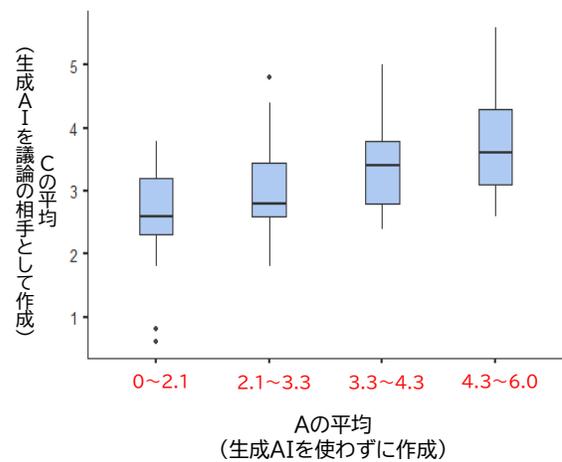
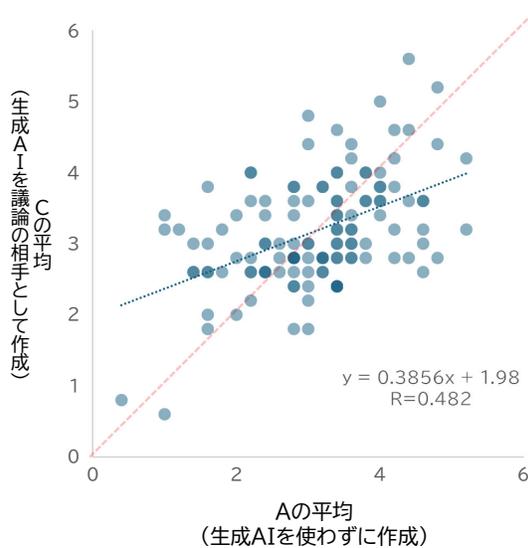
- A 生成AIを利用しないで作成
- B 生成AIのみで作成
- C 生成AIを議論の相手として作成
- D A~Cを踏まえて生成AIのみで作成



©2026 KIMURA Satoshi

短い文章の評価への影響(1) (2023年)

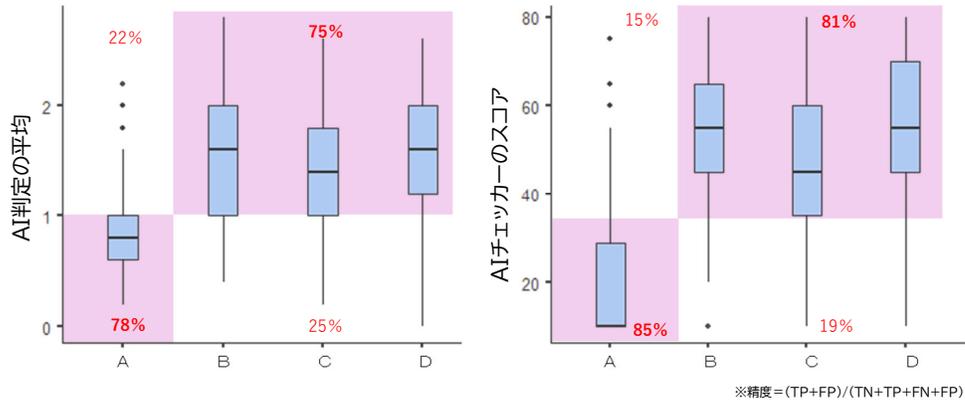
結果2-2 A(生成AIを利用しないで作成)とC(生成AIを議論の相手として作成)の比較



©2026 KIMURA Satoshi

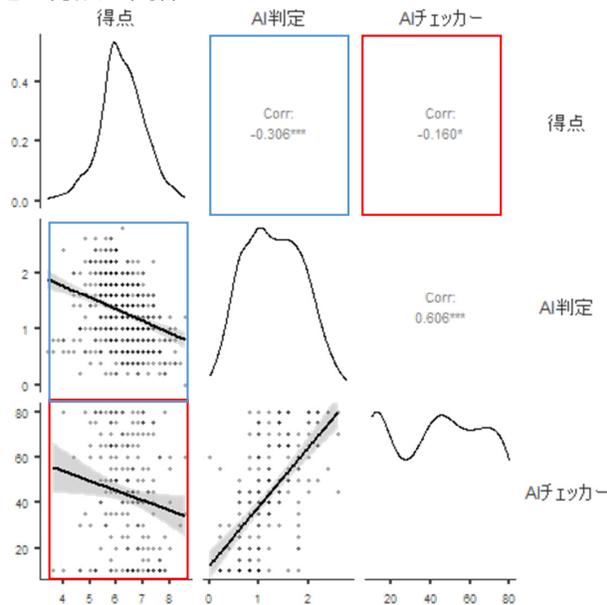
短い文章の評価への影響(1) (2023年)

結果2-4 作成方法別のAI判定



短い文章の評価への影響(1) (2023年)

結果2-5 AI判定と得点の関係



レポート型への影響（2025年）

方法3

- 内 容 九州工業大学 総合型選抜(総合Ⅱ)の「課題解決型記述問題」
- ・B5 1枚程度のスペースに自筆で答案を作成する形式
 - ・答案内に「参考文献」「助言者」「使用したツール」を記載する項目がある
 - ・配点化せず面接の資料として課している

サンプル 2025年1月に出題・提出された答案 69件（うち生成AIの利用申告有 18件）

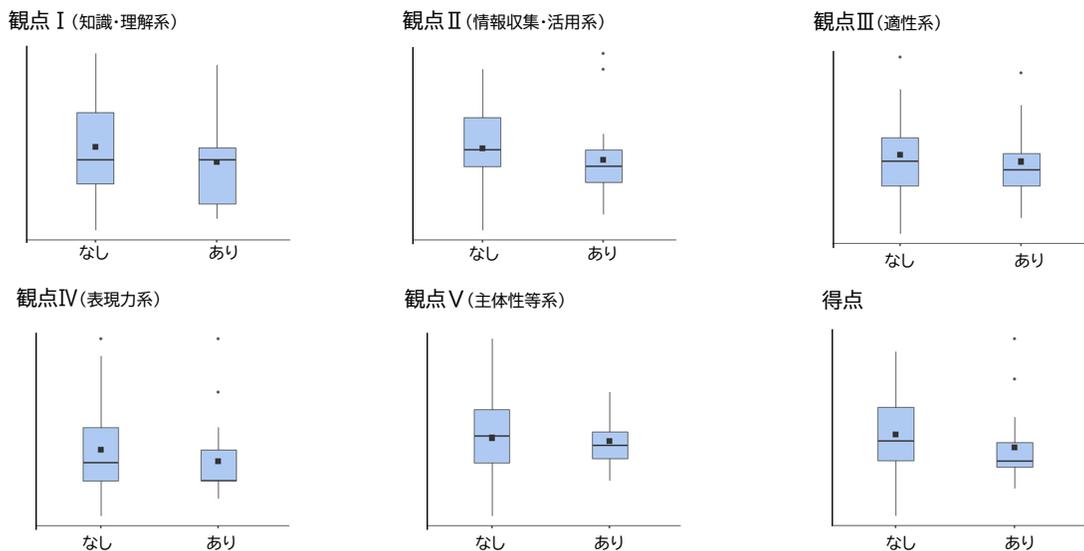
評 価 者 大学教職員 4名

入学者選抜を模した5観点5段階(0~4, 観点ごとに加重あり)のルーブリックで評価
 評価時に生成AIの利用等が分かっている状態

©2026 KIMURA Satoshi

レポート型への影響（2025年）

結果3 生成AIの利用の有無別の得点分布



やや生成AIを使用していない方が得点が高い傾向があるもののいずれも平均点に有意差は見られなかった

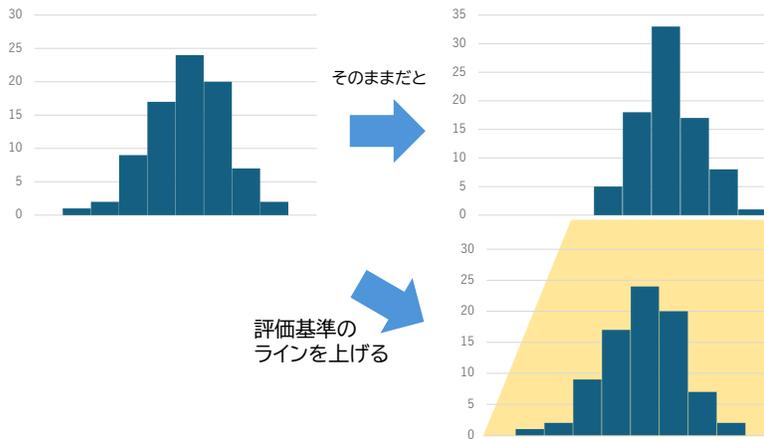
©2026 KIMURA Satoshi

Q.志望理由書は入試に使えるのか

A.近い将来、現状のやりかたを変えずに続けるのは厳しくなるだろう

→出題内容を生成AIがある前提での検討が必要

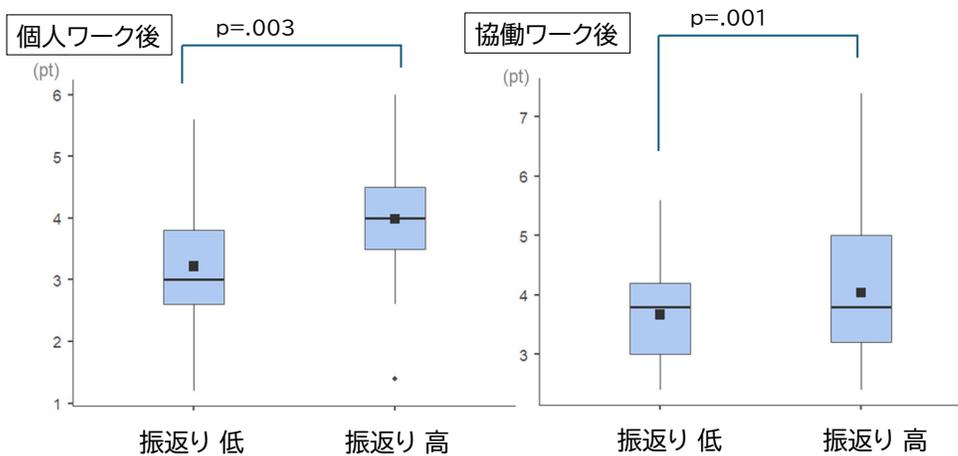
→評価観点や配点の工夫が必要



©2026 KIMURA Satoshi

振り返りの能力と判断力

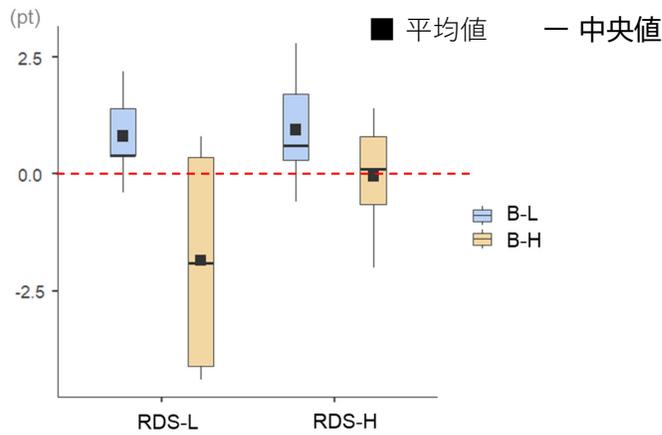
短い文章の添削活動後の得点(大学3年生)



©2026 KIMURA Satoshi

振り返りの能力と判断力

AIなしの得点が低い群におけるBからDの得点の差(得点の伸び)と振り返り(RDS)の深さの関係



深い省察ができない学習者は他者の意見を得ても
適切な修正につながりにくい

©2026 KIMURA Satoshi

今日の流れ

1. 生成AIと従来型AIの違い
2. 高大接続改革と主体性評価
3. 生成AIと高校生の意識
4. 志望理由書の作成に生成AIは使えるのか？
5. 高校はどうすべきか？
6. まとめ

©2026 KIMURA Satoshi

送り出す側の学校はどう関わるか？

⇒生成AIにはできないことをフォローする

- ・(基本的に)生成AIはユーザーを悪くは言わない
→本当に適性がない進路に対してのストッパーにはならない
- ・(与えた情報以上のことは)生成AIはユーザーのことを知らない
→本人の気づいていない魅力や強みを気づかせるのは難しい
- ・(指示しない限り)生成AIはきっかけを与えてはくれない
→視野を広げたり、柔軟な考え方を促すことは難しい

⇒ 大学によって異なる「求める学生像」とのマッチングは生成AIだけでは難しい

©2026 KIMURA Satoshi

大学入試を見据えた生成AIの活用

教科学習への支援

- ・即応的な添削
⇒英作文における文法チェック等
- ・聴覚を活用した学習
⇒AI読み上げ機能を使ったリスニング対策
- ・学習支援アプリ的な活用
⇒間違えた問題を元にしたやり直しテスト

キャリア学習への支援

- ・志望領域の理解促進
⇒なぜ医学部なのか？
- ・知らない大学・学部を見つける
⇒知らないものを探す支援は
検索よりも強い
- ・書類作成の支援
- ・面接練習の相手

⇒ 最近はこちららを想定したサービスも増えている

©2026 KIMURA Satoshi

送り出す側の学校はどう関わるか？

基本的に**AIの利用は生徒に考え、決めさせるべき**という前提に立つ

- ・「選抜における生成AIの利用についての指針」を確認させる
 - (当然AI不可なら使うべきではないとして)
 - その上でどう判断するかを生徒が考え、判断するように促す
(ない場合や判断に迷う場合には、学修におけるポリシーも確認すると良い)
- ・何が評価され、どのように使われるのかを確認させ、説明させる
 - 制度面の趣旨がわからなくても、最低限の情報は募集要項等にある。
募集要項の情報を理解できなければ、適切な添削は難しい。

※先生が添削に使用する場合は校内の利用ルールとともに
生徒の承諾を(できれば書面で)得る。(AI不可の大学の場合は避けた方が良い)

©2026 KIMURA Satoshi

個人的な意見ですが...

対話系に限りますが…使いこなせていそうな生徒／受験生／学生は

- ・深く広い知識や技能をもつ
- ・知識や技能・経験に基づいた高い思考力と判断力をもつ
- ・主体性(調整力&行動力)や協働性が高い
- ・言語化能力が高い
- ・批判的思考力が高い
- ・文章作成能力やデザイン力の高い

⇒ 高校では知識・技能を軽視せず、幅広く学び、学力の3要素を高めてほしい

©2026 KIMURA Satoshi

これからの時代と学力の3要素

生成AIを試験場に持ち込めれば一般選抜は成立しなくなる

- 知識や技能を持つことそのものの価値は相対的に低下していく
- 思考力・判断力の価値は変わらないが求められるレベルは高くなっていく
- 求められる表現力の質や方向性は変わる可能性が高い
- AIを使う側に回るには主体性(≠まじめさ・やる気)が必須となる

AIが当たり前になった時代に人間として何を身につけ、

何を高める必要があるか考え、行動に移し続けていかなければならない

©2026 KIMURA Satoshi

生成AI時代における高校の役割

1. 使う／使わないに関わらず、生成AIを適切に活用できる力を育てる

→有効活用できるように知識や判断力、主体性を高める。

2. 入試の書類審査で問われるのは「主体性」

→普段見ている教師だからできる助言は、まだまだ役に立つ。

※ただしAIが普及することで求められるレベルは上がる。

3. 教師(人)にしかできない教育活動へ注力

→適切にAIを活用することで「教師」だからできることにリソースを割ける

先生方には「先生だからできること」を大切にしてください

©2026 KIMURA Satoshi